

輸入検疫で発見された主な重要病害虫

2001年に輸入された植物から発見された主な重要病害虫は下表のとおりである。これらの病害虫の多くは携帯品で持ち込まれた輸入禁止生果実から発見されている。また、輸入禁止対象及び特定重要病害虫以外でも、タイ産トウガラシ生果実等5カ国3種類からマレーシアミバエ

(124件)、アメリカ産レタス等7カ国24種類からレタスハモグリバエ(217件)、タイ産レンブ等4カ国8種類からセグロモミバエ(28件)及びパキスタン産バンジロウ等3カ国4種類からモミバエ(6件)等侵入を警戒している害虫も数多く発見されている。

輸入禁止対象病害虫	発見病害虫名	寄主植物別発見回数	輸出国別発見回数
	<i>Bactrocera cucurbitae</i> ウリミバエ(11件)	ニガウリ(6) ヘチマ(2) ササゲ(1) トウガラシ(1) ペポカボチャ(1)	タイ(3) インド(2) バングラデシュ(2) フィリピン(2) パキスタン(1) 台湾(1)
	<i>Bactrocera dorsalis</i> species complex ミカンコミバエ種群(139件)	マンゴウ(54) レンブ(19) トウガラシ(15) バンジロウ(11) バンレイシ(9) ゴレンシ(4) リュウガン(4) その他17種(23)	タイ(38) フィリピン(38) 台湾(25) インドネシア(14) ヴェトナム(6) マレーシア(5) その他6ヶ国(13)
	<i>Bactrocera tryoni</i> クインスランドミバエ(1件)	レモン(1)	オーストラリア(1)
	<i>Ceratitidis capitata</i> チチュウカイミバエ(10件)	トウガラシ(9) イチジク(1) オレンジ(1) チェリモヤ(1) バンジロウ(1) モモ(1) モンピン(1) レッドモンピン(1)	ガーナ(5) ベルー(5) ブラジル(2) オーストラリア(1) タンザニア(1) フランス(1) ポリビア(1)
	<i>Oxidia pomonella</i> コドリンガ(1件)	マルメロ(1)	ベルー(1)
	<i>Cylas formicarius</i> アリモドキゾウムシ(3件)	サツマイモ(3)	タイ(2) バラオ(1)
	<i>Anastrepha fraterculus</i> ミナミアメリカミバエ(1件)	バンジロウ(1)	ブラジル(1)
	<i>Dendroctonus ponderosae</i> アメリカマツノキウシムシ(2件)	マツ属材(1) ホワイトバイン材(1)	アメリカ(2)
	<i>Diabrotica undecimpunctata</i> ジュウイチホシウリハムシ(8件)	セロリ(3) タチシヤ(2) カボチャ生果実(1) ホウレンソウ(1) ノーブルファー切枝(1)*	アメリカ(8)
	<i>Lygus lineolaris</i> サビイロカスミカメ(1件)	セロリ(1)	メキシコ(1)
特定重要病害虫	<i>Pantonomus cervinus</i> フラーパーゾウムシ(11件)	ウンシュウミカン生果実(6) オレンジ生果実(1) レモン生果実(1) アジサイ属切花(1) プロテア属切花(1) レスチオ科切花(1)	ニュージーランド(9) アメリカ(1) ハワイ(1)
	<i>Zabrotes subfasciatus</i> ブラジルマメゾウムシ(3件)	ライマメ(1) カナビス種子(1) ポプリ(1)	インド(2) ミャンマー(1)
	* 本来の寄主植物ではなく、ヒッチハイクとして発見されたものである。		

海外のニュース 米国で発生したSudden oak death への警鐘

最近、米国のカリフォルニア州で数種のコナラ属植物に激しい急性枯死(Sudden oak death)が確認され、その病原菌は疫病菌の1種である *Phytophthora ramorum* と考えられている。

本菌は、オレゴン州の一部地域やオランダ、ドイツ等でも発見されており、コナラ属植物をはじめ、マテバシイ属、コケモモ属、ツツジ属植物等、多くの植物に寄生することが報告されている。

本菌による症状は、樹種によりかなり異なっており、コナラ属植物では、最初に幹の下部に濃赤色～黒色の樹液の漏出が見られ、その部分を剥ぎ取ると、樹皮と白木質部に明瞭な濃赤色の境界を有す潰瘍が観察される。一方、マテバシイ属植物では、初め新しく展開した茎葉が萎れ、古い葉も淡緑色となり、2～3週間後には褐色となって枯死する。その他の寄主植物では、葉の斑点や枝枯れに止まることもあるが、感染が激しい場合には枯死に至る。

伝搬は、他の疫病菌と同様、り病植物や汚染土、風によって起こると考えられている。り病樹木からキクイムシ類が一般的に発見されてい

るが、媒介虫としての潜在的役割についての研究はなされていない。

コナラ属植物等は、欧州においては重要な森林資源として、また、アメニティ(心を癒す)樹木として重要視されており、本菌により万一樹木が枯死するような事態になれば、森林の生物多様性にマイナスの影響を及ぼしかねず、大きな環境問題になることは必至である。

このため、ヨーロッパ・地中海地域植物防疫機関(EPPPO)は、米国での発生状況等に大きな関心を払っており、本病に関して、詳細な情報が不足している寄主範囲や発生生態、米国と欧州の個体群の異同関係、病原性等について、オランダや米国の研究機関、大学等で詳細な研究を進めている。

(参考: http://www.eppo.org/QUARANTINE/Alert_List/Fungi/oak_death.html)

発行所 横浜植物防疫所
〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎 ☎(045) 211-7155
発行人 森田健二
編集責任者 高山睦雄
印刷所 内村印刷株式会社